

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	楠見東小学校	水本 晃史
学校所在地		
〒	640-8471 和歌山市善明寺150番地の1	
tel	(073) 451-3424	fax (073) 451-3424
担当者名		役職名・担当教科
平尾 和明		教諭・6年担任
<p><b>〔学校の概要〕</b></p> <p>楠見地区は、和歌山市の北部に位置し、北は和泉山脈の南斜面、南は紀ノ川の堤防沿い、東は鳴滝川、西は南海電車線沿いに区切られた地域である。地域内には、弥生時代の倉庫群と考えられる鳴滝遺跡や日本でも珍しい出土品がある大谷古墳等がある。本校は、宅地造成にともなう人口増加により、楠見小学校が超マンモス校になり、これを解消するために3分割して誕生した学校である。特別支援学級を含め、学級数は、16、職員数は25人、全校児童数は、335人である。</p> <p>「どの子にも豊かな心と学力を」をテーマに研究主題を「一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成」とし、国語科を中心教科として子どもの伝え合う力、コミュニケーション能力の育成を目指している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6 年生 62 名	4 名 職員 4 名	視聴覚室・教室・高野町中央公民館・高野山奥の院
実践研究テーマ		
一人ひとりが思いや考えをもち、互いに伝え合い、学び合おうとする子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
国語科・総合的な学習の時間	国語科「町の未来をえがこう」総合的な学習の時間「世界遺産・高野山～持続可能な社会を目指して～」	
〔キーワード〕 和歌山県 世界遺産 情報活用能力 SDGs		
<p><b>〔単元目標〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県には、世界に誇れる世界遺産があることを知り、その環境の大切さを考えるとともに、自分の周りの環境も大切にす気持ちと態度をもつ。</li> <li>世界遺産、高野山の自然、文化財を学び、SDGsの観点から持続可能な社会について考えることができる。</li> <li>ICTを活用して自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、適宜図表やグラフを用いて、情報の受け手を意識して表現することができる。</li> </ul>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b></p> <p>全体 14 時間 （「世界遺産・高野山～持続可能な社会を目指して～」 5 時間 ）</p>		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b></p> <p>特に関連せず</p>		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	高野山について調べよう。 自分の調べたいことを決定する。 (3時間)	高野山の歴史や文化、自然について新たな情報や気付きを見つける。 調べた情報や意見交流の中で自分の興味関心があるテーマを決定する。	知識及び技能 (ワークシート)
2	次世代育成事業に参加することで、和歌山県や自分の回りの環境やSDGsについて身近に考える機会を持つ。 (5時間)	次世代育成事業を体験するにあたり、高野山の自然環境や地理的、歴史的な情報について、基本的な情報はあらかじめ学習しておく。	関心意欲態度 (観察、ワークシート)
3	それぞれが考えたことについて、資料を集め、提案を考える。(3時間)	ICTを有効活用し、必要な資料を集め、取捨選択する。SDGsの観点も考えさせる。	知識及び技能 (ノート)
4	構成と使う資料を考えて、グループで発表する。(2時間)	構成については、教科書に提示されている見本をもとに考えていく。	知識及び技能 (ノート)
5	お互いの発表を聞き合い、感想を伝え合う。(1時間)	自分の思いや願いが伝わるように表現する。	思考力、判断力、表現力
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>国語科「町の未来をえがこう」を中心に、和歌山県や自分たちの身の回りの環境を身近に考えられるよう単元を構成した。自分たちの未来について考え、持続可能な社会にするための自分のできることを考える。その際、次世代育成事業に参加し、高野山を訪れたことで、教科書での話だけでなく、実感を伴った学習にすることができた。</p> <p>今回の現地体験を生かして、自分たちの町の未来を考えて、持続可能な社会を形成するためのアイデアを考えたが、今後はもっと深く自分たちの町と関連していければと思う。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>和歌山市で生活をしていると、和歌山県に世界遺産があること自体を意識していない。何か自分たちとは違う地域の自分たちとは関係のないものと思っている。そういった現状の中、実際に世界遺産である高野山で話を聞き、自分の足で歩くことだけでも、子どもたちにとっては貴重な体験であり、和歌山県の世界遺産や自然環境を知り、それを守っていくという意識の動機づけになった。</p> <p>教科書や本、新聞、ニュースで情報を得るだけでなく実際自分の目や体で感じることによって、今後の子どもたちの意識に変化を与えるものであったと考える。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>SDGsの観点からもこの和歌山の自然や世界遺産を守り、持続可能な社会を考えるきっかけとしても有意義な時間を過ごすことができたと思う。今後は次世代の子どもたちが持続可能な形で、地元和歌山の世界遺産、自然や地球の未来についても考えることが重要であると考え。これからもSDGs等で学んだことを身近な問題から自分事として考えることができるようにしていきたい。</p>			

## 様式 2

### 令和4年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

令和4年10月31日（月）に、楠見東小学校視聴覚室にて次世代育成事業事前学習を行った。まず、初めに、世界遺産講座を金井先生より45分間お話しいただき、世界遺産についての概略と「紀伊山地の霊場と参詣道」について学んだ。具体的に抹消された世界遺産を知ることによって今後も守り続けていかなければならない和歌山県の世界遺産について深く考えるきっかけとなった。

子どもたちの感想は、色々な世界遺産を知ることができた。和歌山県にも「紀伊山地の霊場と参詣道」という世界遺産があり、先日は修学旅行で那智の滝へ行ったが、次は高野山へ行けるのが楽しみだ。世界遺産にも抹消されるものがあるということが分かった等の意見があった。

令和4年11月4日（金）に、高野山にて行われた。

午前中の現地実習は、7グループに分かれて一の橋から弘法大師御廟までを歩き、世界遺産マスターのみなさんに親切丁寧に案内していただいた。供養塔や五輪塔を説明してくださり、教科書で習った歴史人物の豊臣秀吉や織田信長のお墓をじっくり見たり、興味深く井戸を覗き込んだり、子どもたちも楽しく見学することができていた。午後からの現地学習は、壇上伽藍から金剛峯寺まで歩き、途中三鉢の松や根本中堂等を案内していただいた。

子どもたちは、「こんな近くに世界遺産があり、説明を聞いて和歌山を再発見することができた。」や「社会の歴史教科書に出てくるような、織田信長、豊臣秀吉等の色々な歴史人物のお墓があり、興味を持った」という感想があった。約2時間という時間であったが、奥の院を見学でき、新たな高野山、和歌山県を知ることができた機会となった。

事後学習は、現地学習を行って学んだことや疑問を明らかにして、グループ学習を行った。自分たちの県、和歌山県の世界遺産高野山とSDGsと関連させて考えている班もあった。町石道や奥の院を守っていこう、次の世代、未来にこの貴重な世界遺産を守っていかなければならないと考えていた班もあり、みんなで共有するために授業参観で発表を行った。危機的な世界遺産からSDGsと関連させて持続可能な社会を考えることもできた。

和歌山市からの参加で、近くには大谷古墳や和歌山城といった史跡はあるが、高野山の奥の院や壇上伽藍や金剛峯寺の見学を行うことで、子どもたちも新しい和歌山県の姿にふれることができた貴重な体験となった。

